

静岡県協働パイロット事業 (H29) 企画提案書

団体名：奥わらママ

1 事業のタイトル

子育てママが中山間地域に安心して移住できる「薬科のくらしかた」製作

2 事業の概要 (市民ニーズや協働で取り組む意義を踏まえて記載してください。)

事業概要

◆子育て世帯のための中山間地の暮らし方ガイドブック作成

市街地とは異なる中山間地の子育てや暮らし方のガイドブックを、受入れ地域で暮らす母親たちが作成します。移住を希望する希望の子育て家庭に配布することで、移住に対する不安や懸念材料を減らし、具体的な移住プランをたてやすくし、移住の促進を行います。

◆移住者の受入れ体制を作り、地域ぐるみで迎える体制を整えます

葵区大川、清沢、水見色、峰山、中薬科、異なる5つの地域に暮らす母親たちがガイドブックを作ることで、移住者の受け入れ態勢を整えます。現在、一部の地域で行われているのですが、地域で子育て中の母親が移住希望者の現地案内を行うことで、移住後の双方のギャップを軽減し、よりしあわせな移住を地域ぐるみで後押し。定住へとつなげます。

奥わらママについて

「奥わらママ」は奥薬科在住の母親を中心に結成された子育て支援グループです。中山間地特有の孤立しがちな子育て環境を地域住民が自らの手で解消。静岡市葵区の中山間地、大川、清沢、水見色、峰山、中薬科地区を、静岡一子育てが楽しい里山にしていくことを目標に活動しています。現在40名以上の母親が登録し、活動をしています。

事業提案の背景・課題と事業について

奥わらママでは、移住も、地域の方と結婚をして里山に嫁ぐことも、置かれる環境や直面する問題はほぼ同じだと考えます。里山のくらしは自然豊かで、人のつながりもいまだに存在し、安全で、子育てに向いています。しかしながら、人口は減り続け、地域内には子供たちや子育て中の母親が集える支援センターや公園などがほぼ存在しません。

市街地とは異なり、ある程度のコツを覚える必要があるのが里山のくらし、そして里山の子育てです。地域の移住者や嫁いだ女性の声から、事前に里山のくらしや地域について具体的に知ることが、里山で

の暮らしを前向きにとらえる手助けとなり、移住後の安心と、定住促進につながるのだと知りました。そこで、地域の子育て&暮らし方ガイドの作成、そして受入れ体制の整備を、静岡市と協働で行いたいと考えました。

#### ①移住前後のギャップ

地域の移住者から「こんなはずじゃなかった」「移住する前に知りたかった」そんな声を耳にする機会が多かったこと、そして出身地以外の地方への移住（Iターン、Jターン）を考えている人の4割が、移住に関する情報が十分ではないと感じている（NPO法人ふるさと回帰支援センター調べ2014年）という結果から、具体的な移住後の情報提供が求められていると考えました。中山間地では、共同水道への入会や浄化槽の設置など、インフラから整えなくてはいけないケースも多々あり、事前に情報を提供していれば対応可能なことが多いことも背景にあります。

#### ②属性の異なる移住者への的確な情報提供の不足

移住希望者の属性が異なれば、生活も、必要な情報も異なります。しかしながら、ターゲットを明確にした情報提供は十分にされていません。全国的に移住促進が進む中、細かなニーズに応じた情報をピンポイントで提供することが必要とされています。移住をより多くの子育て世帯の選択肢とするために、奥わらママは子育て世帯が求める情報を的確に提供し、移住後の生活を具体的に描く手伝いをすることで移住を促進します。

#### ③子育てに向いているはずの里山移住の高いハードル

10～30代の女性の多くが「結婚・子育て」をきっかけに移住を考えると回答しながらも、移住の不安・懸念材料として「働き口」や「日常生活や公共交通の利便性」を挙げています。（NPO法人ふるさと回帰支援センター調べ2014年）移住地域によって、環境も異なります。事前に的確かつ、具体的な情報を提供することで懸念材料を減らし、里山の子育ての魅力をあますところなく伝えることで、移住を身近に感じてもらい、ひとりでも多くの人たちが中山間地での子育てを考えるきっかけにします。

#### ④「選べる移住」の実現

大川、清沢、水見色、峰山、中藁科地区、という異なる環境の奥藁科地域のくらしの情報を一冊にまとめることで、子育て世帯の多様な移住ニーズへの対応を可能にします。市街地から車で20分と通勤圏で市街地とほぼ変わらない環境でありながら自然あふれる中藁科地区、市街地から離れた隠れ里のような大川地区、小さな昔ながらのコミュニティを維持し、不登校児などにも理解のある水見色地区など、数多い移住の選択肢を示すことで、移住希望者は様々な移住スタイルを描くことができます。

#### ⑤移住者の孤立

移住者に対して移住前は沢山のフォローがあったのに、生活が始まった移住後のフォローがないケースも多く存在し、移住者の地域への不信感を募らせることがあります。移住者がコミュニティに溶け込めず、都市へ戻った話も耳にします。世代の近い地域住民による受入れ体制を作り、移住前から、その地域に生活する住民がフォローをすることで、スムーズな移住生活へとつなげます。

⑥「先輩移住者」ではなく、地元住民による情報提供の必要性

地域に移住してきた時に「外の人」と称されることもある先輩移住者が作るガイドではなく、そこに生まれ育った地域住民や、その家族が作る冊子であることが、より現実的な移住生活を伝え、かつ移住希望者の安心を生み、満足度の高い移住生活へとつながります。

⑦移住への理解が進まない受入れ地域

移住者にとっては特別な都市部から中山間地への移住であっても、地域住民にとっては単なる引越してしかないことが多々あり、移住の満足度を下げることがあります。受入れ地域の住民が移住希望者のための冊子を作ることで、地域住民の理解を深め、移住後も移住者がくらしやすい環境づくりへとつながります。

⑧子育てが孤立しがちな中山間地

中山間地は子育て世帯の人口が少なく、広域に分散、そして行政の手も届きにくいので、地域が取り組まない限り、移住者でなくとも子育てが孤立しがちな状況下にあります。移住希望者のために、地域に住む同世代の母親が協力し、ガイドブックを作ることで、横のつながりを促進し、自らの子育て環境を見直し、恵まれた自然環境を大いに生かした、子どもが健やかに育つことができる環境を整えます。

**静岡市と協働で取り組む意義**

- ・全国的にもめずらしく、行政だけでは作ることができない、地元で子育てをしている母親による、子育て移住希望のためのガイドブックの作成
- ・行政がカバーしきれない、移住者のための地域のくらしのセーフティネットや相談窓口を担います
- ・子育て家族の移住を促進します
- ・移住後のトラブル等を軽減し、定住を促進します
- ・複数の地域をまとめることで、好みの移住スタイルを選べる中山間地のくらし方ガイドの作成
- ・支援の行き届かない中山間地の子育てを手助けする、子育てガイドの作成
- ・子育てしやすい多自然地域、中薬科～奥薬科地域の認知度をあげます

### 3 協働して事業を行う際、貴団体の担う役割と静岡市に担って欲しい役割

#### 奥わらママの担うこと

##### ◆ガイドブック作成

薬科のくらしのガイドブックを作ることで、移住希望者の里山くらしへの理解を深め、地域の特性を把握してもらい、移住と定住の促進を行いつつ、地域へ嫁いできた人たちにもガイドを利用してもらい、里山の子育てや生活のストレスを軽減します。

～「移住ガイドブック」に掲載予定の内容～

- ・薬科川流域の各地域の特徴（大川、峰山、清沢、水見色、中薬科の産業や伝統など）
- ・里山生活情報（必要必須品、コミュニティ、しきたりなど）
- ・生活するうえで必要最低限のインフラ情報（上下水道、通信、交通について・例えば井戸水、山水を使用、共同水道や浄化槽について、携帯通話圏、光通信網の整備地域と今後の拡大など）
- ・日々の暮らしにかかわる地理情報（病院、買い物、食品宅配はどこまで来るのか、地域の人が利用するスーパーやホームセンターまでの所要時間、規模など）
- ・幼保こども園、各種学校とその生活について（ユネスコスクールに加盟している公立こども園、定員に余裕がある状況、預かり保育や学童についてなど母親が働くための環境について）
- ・交通について（ガソリン代、オンデマンドバスの乗り方、地域のタクシーその他の移動手段について）
- ・里山の生活のリアルな情報（四季、気温、虫、人付き合いなど）
- ・各地域の行楽情報（桜、紅葉、川遊び、商店、寺、お地藏さん、特産物など）
- ・地元あるある（救急車を呼んだら、患者を動かせるならマイカーに乗せて山を下り途中で合流する、地域の若い男性の交流は消防団が軸、など）
- ・地域の伝統行事（伝統行事、祭事、各地の神楽など）
- ・地元の料理レシピ（販売所、地元を受け継がれるレシピなど）
- ・先輩移住者ママの声
- ・既存の Facebook と連携することでくらしのセーフティネットとしての存在も強化
- ・静岡市の移住サポート情報
- ・静岡市の子育て基本情報

##### ◆移住受入れ地域の理解促進

生まれ育った地域住民や、その家族がガイドブックを作ることで、若い母親を軸に地域住民の移住への理解をすすめ、移住者の住みやすい地域づくりを促します。

##### ◆移住前の地元住民による地域紹介のフォロー

移住を希望する子育て世帯のフォローを、希望地域の同世代の子育て中の母親が行います。一緒に地域をまわり、移住希望者が欲しい移住後の具体的な情報を的確に提供します。移住前の不安を軽減することで移住を促進しつつ、移住後のギャップを減らし、しあわせな子育て移住へとつなげます。

◆移住後の移住生活のフォロー

移住前から、地域の同世代の母親が関わることで、希望地域へのスムーズな移住を行い、移住後もフォローし続けることで、地域とのトラブルや移住者のストレス軽減を行います。

◆受け入れ体制とフォローについて

ありのままの「日常の里山の暮らし」を知ってもらうことが移住の満足度や地域への信用度を高めます。希望があれば、普段開催している「奥わらママ」の活動へ参加をしてもらい、地域の子育てについての生の情報を得てもらいます。そして、移住希望地の下見には、その地域に母親も同行し、具体的な地域の暮らし情報を伝え、不安軽減に努めます。

**静岡市に担ってほしいこと**

- ・移住希望者への冊子、活動案内
- ・移住センターなどを介した移住希望者との連絡業務
- ・移住希望者の相談、下見時の各種フォローなどのケア
- ・事業実施に関する後援
- ・ガイドブック作成のための資料や情報、データの提供
- ・ガイドブックへの公立幼稚園や学校等の情報掲載許可、事業についての公共施設等への理解連絡
- ・地域に関わる各行政担当者や、行政関係部署との連携（保健師、民生委員、社会福祉協議会など）
- ・事業広報にまつわる宣伝や記者への情報提供など
- ・空きやバンクを利用する際の関係部署への紹介、あっせんなど

団体名：奥わらママ

#### 4 事業計画・実施スケジュール


##### 【事業計画】

企画課と協議の上、下記スケジュールで実施を予定します。

移住希望者の下見受入れは6月以降、随時、行う予定です。

- ①企画会議の実施
- ②編集会議の実施
- ③取材～編集、入稿・受け入れ体制の整備
- ④冊子完成・各所挨拶など

##### 【実施スケジュール】

	冊子作り	下見受入れ
6月	①企画課との協働内容の確認 顔合わせ・企画会議の実施 ②編集会議の実施 ・掲載内容のアイデア出し ・担当の振り分け ・冊子の概要等決定	企画課との協働内容の確認 受入れスタッフ会議 ・すすめ方、案内の仕方について ・役割分担など 各地域の連長、移住担当者にあいさつ
7月	③各自治会や関係各所への説明、あいさつ 冊子割り付け、構成、取材分担	※移住下見希望家庭については随時対応 都合によっては他のスタッフが請負う 
8月	③構成、取材、レイアウト	
9月	③取材、レイアウト	
10月	③編集、構成	
11月	③編集、校正	
12月	④入稿～完成 各所挨拶、プレスリリースなど	

団体名：奥わらママ

## 5 実施体制及び主要スタッフの経歴

### 【実施体制】

- ・ 主担当者：梶山美晴(奥わらママ代表・産婦人科看護師)  
森飛鳥 (奥わらママ副代表・保育士)  
和田絹子 (奥わらママ事務局・会社員)  
前田悠 (奥わらママ会計・パート)  
和田真由美 (奥わらママ広報・会社員)  
池田水穂子 (奥わらママサポート・里山くらしLABO・はびまますずおか)
- ・ 地区担当

大川	川久保祥子	介護士
	中村理恵	保育士
水見色	勝山夏子	肉牛農家
中藁科	永田愛子	保育士 (育休中)
	佐藤智美	
	和田真由美	
	梶山美晴	看護師
清沢	森飛鳥	保育士
	和田絹子	
峰山	上仲伶奈	調理師
	本多麻子	
サポート	池田水穂子	はびまますずおか 代表 里山くらしLABO 代表 しずおか地域デザインカレッジ終了生 静岡市上下水道事業経営懇話会委員

都合によっては上記以外の奥わらママメンバーや地域の母親が、案内を行います。

### 【主要スタッフ・梶山美晴経歴】

清沢地区に生まれ、静岡市内で育ち、中藁科に嫁ぎ、現在奥藁科地域から最も近い産婦人科で看護師として勤務。3歳と6歳の二児の母親です。孤立する中山間地の子育ての現状を知り、2015年に奥わらママを立上げ、藁科川上流の大川、清沢、峰山、水見色、中藁科地区に暮らす、母親たちとともに、子育て中の母親が集える拠点づくりや居場所作りを行いました。

2015年 中蘂科各 地域の自治会や自治会連合会会長へ挨拶

地域での活動の承認を得るとともに、活動サポートのお願いをする

2015年秋 中蘂科の自治連合会会長とともに、静岡市へ「都市山村交流センターわらびこ」に  
幼少期の子供と母親が集い、遊べる空間設置のお願い。

2016年1月 中蘂科の「都市山村交流センターわらびこ」にキッズスペース完成

2016年夏 清沢地域で販売する「清沢式ぶっかけレモン」の製造に携わる。

(地域に住まう若い母親たちの収入にもなる)



団体名：奥わらママ

6 特にアピールしたいこと（専門性、独自性、先駆性、実績、2年間継続することの効果など）

【専門性】

奥わらママは、地域に暮らす幼少期の子育てをしている母親たちが作る団体です。地域で子育てをしている母親や家族と関わり、ヒアリングや対話を重ね、こまやかなニーズに応じた支援を行ってきました。代表の梶山美晴は地域から最も近い産婦人科の看護師であり、2児の母親でもあります。

【独自性】

事業の発端が地域へ嫁いできた母親や、移住してきた母親からの要望であることは強いオリジナリティを持っています。この冊子は、移住者への移住後の暮らし方ガイドであるとともに、他地域から嫁いできた母親たちにとっても、この奥蘆科地域で生活する際のガイドにもなります。

全国各地で移住促進活動が展開されており、移住をサポートする冊子は各地で作られ始めています。しかし、外部支援者である行政やサポート団体、移住して数年の移住者が作成した移住ガイドブックは存在しても、そこに生まれ育った地縁者や地縁者の家族、さらに現在子育て中の母親たちが、同じ子育て世帯へ向けて作る冊子は、調べる限り全国にはほぼ見当たりません。

地縁者が編み出す情報は、地域の伝統や魅力などを伝えられるその一方で、地域で育った人にしかわからない、語り継がれるような暮らしの工夫や、受け入れる地域の人が求める姿を含むことが可能なため、移住者の移住後のギャップを軽減し、周囲の理解も得やすいため、定住の促進へとつながります。

【先駆性】

全国で人口が減っていくこれからの日本。地域によっては限界集落に定義されている地域も含む奥蘆科地域において、行政に頼るのではなく、自助をベースにした移住支援をすすめようとしていること、そして今後コミュニティを支えていくであろう若い世代の女性の活動であることは、先駆的な取り組みであると言えます。

【実績】

地域に生まれ育った母親たちが5地域をまたいで広く継続し、活動してきたので、地域の連合町内会や団体の理解も深く、どの地域にも広く受け入れられています。幼少期の子育てをしている若い母親たちの交流促進はもちろんのこと、地域で作る料理を教えてもらったり、地域の祭事、行事に参加、時にはこども園や学校の行事にも有志で参加をしたり、地域に暮らす他の世代や団体との交流も深めているため、よりよい冊子作りが可能になります。

～「奥わらママ」活動の一部～

2015年12月 奥わらママ立ちあげ

初の「奥わらママ会」開催

2016年1月 中蘆科地区「蘆科都市山村交流センターわらびこ」内にキッズスペース完成

- 2月 大川地区大川こども園(休園中)にて「奥わらママ会」交流会開催  
中藁科地区東泉寺にて地元の方とともに合同豆まき会開催
- 3月 中藁科地区にて地域のイベントに「奥わらママのフリーマーケット」で参加  
静岡市立清沢こども園による「奥わらママ会」ひなまつり招待  
清沢地区飲食販売施設「きよさわ里の駅」にて味噌作り体験学習
- 4月 中藁科地区にてお花見開催
- 5月 清沢地区にて「きよさわ里の駅」イベントに出店
- 6月 清沢地区にて地域の方に川遊びのカゴ作りを教えてもらう
- 7月 中藁科地区にてお寺のパーベキュー大会に参加
- 8月 峰山地区の大畑牧場にて巨大流しそうめん大会開催
- 9月 清沢地区久能尾にてハロウィンの会
- 10月 中藁科地区センターわらびこにて芋掘り&食品サンプル作り体験  
静岡新聞夕刊1面にて「奥わらママ」の活動紹介
- 11月 清沢地域の巨大イベント「清沢ふるさと祭り」に出店
- 12月 清沢地区にてお正月のしめ縄作り
- 2017年1月 水見色地区にて交流会&地域散歩、牛舎訪問、保健師さんの相談会など
- 2月 中藁科地区東泉寺にて地域の方と高齢の豆まき会
- 3月 遠足「しずもーる」にてガラス体験  
「奥わらママ会」清沢地区にて味噌作り

その他各地の催事やイベントに「奥わらママ」としても参加。

現在では、各地の自治会連合会や町内会、各種団体にもその名を知られ、5つの地域で広く、かつ深く活動できる基盤をもとに、冊子作りを行います。

#### 【継続することの効果など】

- ・多自然地域で子どもを育てることを理想としながらも、里山への移住はハードルが高い…と、今まで考えてこなかった子育て世帯にも冊子が普及することで、理想の自然が多い環境下の子育てが具体的に、選択肢のひとつとなります。
- ・ガイドブックが地域の移住受入れ体制を整えるための軸となり、移住後の孤立を軽減できます。
- ・ガイドブックを地域の母親が作ることで改めて地域の課題を認識、共有できるため、来年度から効果的に体制づくりができます。
- ・自助で促進する体制を整えやすくなるため、行政負担の軽減にもつながります。
- ・移住者からの情報収集もすすみ、よりニーズに応じた移住情報が提供できるようになります。
- ・人口減少がすすむ地域の暮らしのロールモデルとなり、他の地域でも役立つことが可能になります。
- ・里山の暮らし方のガイドツールを手にするすることで、今後移住希望者への地元住民の案内やたやすくなり、多くの住民が関わることも可能になります。

(様式4)

## 静岡市協働パイロット事業 (H29) 見積書

団体名：奥わらママ

事業のタイトル：子育てママが中山間地域に安心して移住できる「蕨科のくらしかた」製作

項目	金額	説明 (算出根拠)
<b>【冊子製作費】</b>		
人件費	115,620	企画・編集会議 @820×14名×4h 取材・原稿作成 @820×7名×10h 校正・発送・諸連絡など @820×15h
冊子デザイン費	40,000	冊子表紙、イラスト等
印刷費	140,000	@140×1000冊 (A5、36ページ、フルカラー、無線綴じ) 400部を静岡市へ 600部を奥わらママへ
交通費	5,400	@180×30
送料	5,000	切手、冊子送付料
諸雑費	5,000	資料コピー代、文具、ポストイットなど
事務管理費	4,220	
<b>【移住希望者案内】</b>		
案内同行	14,760	@820×3h×2名×3回 (移住希望者が3組訪れると想定)

小 計 A	330,000	
消費税 B=A×0.08	26,400	
合 計 A+B	356,400	

※ 参加費の徴収、物品の販売、提案団体の自己負担等、委託料以外の財源がある場合

収入見込み額	金 額	主な用途
なし		